



St. Luke's International University Chapel

聖路加国際大学聖ルカ礼拝堂

〒104-0044 東京都中央区明石町 10-1 TEL 03-5550-2416 (事務室)

E-mail : chapel@luke.ac.jp URL <http://nssk.org/tokyo/church/luke>

ヨハネ福音書 6:24 - 35 (聖霊降臨後第 11 主日、24/08/04)

「弱いヒーロー」

チャプレン ヨナ 成成鍾司祭

世代や時代を超えてヒーローは求められます。多くの人々から愛されるヒーローは、実存する英雄だけではなく、映画やアニメなどでは欠かせない架空のキャラクターも多く存在します。作り出されたヒーローの場合、スポーツの試合で圧倒的な活躍を見せて勇気や希望を与えたり、突然の事故や事件を一瞬で解決して人々を助けたり、悪い組織の企みから世界を救ったりなど様々なアイデンティティで描かれます。沢山のヒーローの中、日本にはちょっと変わったヒーローがいます。それは原作者の柳瀬嵩(1919-2013)さんが「世界一弱いヒーロー」と表現したアンパンマンです。アンパンマンは、幼児期の子どもたちから絶大な人気を誇る漫画・アニメですが、子ども向けでありながらもなかなか重みのある深い内容になっています。むしろ大人が学べることが多いのではないかと思います。私も子育てしていた頃にテレビでアンパンマンを見て、内容がキリスト教の精神にかなり近いと感じて驚いた記憶があります。柳瀬さんの戦争体験から得た命を大事にする心が漫画・アニメ全体に反映されているそうですが、世代や時代を超えてよい影響を与えていると思います。

有名なセリフですが、アンパンマンはいつも“僕の顔をお食べ。”と述べてお腹が空いている子どもに自らの顔の一部をちぎって施します。その後、バイキンマンの攻撃によってピンチになることも多々ありますが、困っている子どもに手を差し伸べることを止めません。その理由が分かる一つのエピソードとして、ポエムさんという新しいキャラクターとの会話(『それいけ!アンパンマン』第 1631 話)が挙げられます。アンパンマンが自分の顔をちぎって空腹のポエムさんに差し出した時、ポエムさんは“君は何のために生まれたの。何が君の幸せ。何をしたら喜ぶ。”と聞きます。アンパンマンは“僕は、お腹が空いて、困っている人を助けるために生まれてきました。だから、ひもじい人に食べてもらうことが一番嬉しいんです。”と返答するも、再びポエムさんは“でも、そのせいで顔は欠けてしまうし、飛ぶ時はフラフラだし。はっきり言ってかっこ悪い。それでいいの。”“このまま顔をあげ続けて君がいなくなってしまう。”と問いかけます。するとアンパンマンは“僕はパンだから食べられるのが幸せなんです。”と答えたのです。

これは主題歌「アンパンマンのマーチ」の歌詞の一部、“何の為に生まれて、何をして生きるのか。”についての答えでもあります。パンとして生まれ、人に食べてもらうために生きる、だから自分を分け与えることで弱くなることであってもそれが一番嬉しいという、これこそヒーローだからできる究極の自己犠牲だと言えます。自分を惜しみなく捧げるアンパンマンの姿勢からは、人類の救いのため十字架にかけられたキリストのみ業、また今も「生きた命のパン」(48 節)として私たちに永遠なる命を分け与え続けているキリストの憐み深いみ心のことが連想されます。確かに自分の顔をちぎって分け与えるアンパンマンも、ご自身の存在そのものを十字架に捧げたキリストも、「世界一弱いヒーロー」かもしれません。けれども、両者ともに困っている人々、悩んでいる人々、病んでいる人々、助けを必要としている人々など、小さくされているすべての人のために、今も自分の命を分け与え続けているので、他ではなかなか会えない本物のヒーローだと言えます。弱さのゆえに自分が傷ついたり何かをなくしたりすることがあっても他者を救うことを最優先にする、それがヒーローなのです。むしろ弱いからこそヒーローになれるかもしれません。

(※聖書は裏面に記載されています)

<福音書> ヨハネによる福音書 6章24～35節

群衆は、イエスも弟子たちもそこにいないと知ると、自分たちもそれらの小舟に乗り、イエスを捜し求めてカファルナウムに来た。

そして、湖の向こう岸でイエスを見つけると、「ラビ、いつ、ここにおいでになったのですか」と言った。

イエスは答えて言われた。

「はっきり言うておく。
あなたがたがわたしを捜しているのは、しるしを見たからではなく、パンを食べて満腹したからだ。

朽ちる食べ物のためではなく、いつまでもなくなるしないで、永遠の命に至る食べ物のために働きなさい。

これこそ、人の子があなたがたに与える食べ物である。

父である神が、人の子を認証されたからである。」

そこで彼らが、「神の業を行うためには、何をしたらよいでしょうか」と言うと、イエスは答えて言われた。

「神がお遣わしになった者を信じること、それが神の業である。」

そこで、彼らは言った。

「それでは、わたしたちが見てあなたを信じることができるように、どんなしるしを行ってくださいますか。

どのようなことをしてくださいますか。
わたしたちの先祖は、荒野でマンナを食べました。
『天からのパンを彼らに与えて食べさせた』と書いてあるとおりです。」

すると、イエスは言われた。

「はっきり言うておく。
モーセが天からのパンをあなたがたに与えたのではなく、わたしの父が天からのまことのパンをお与えになる。
神のパンは、天から降って来て、世に命を与えるものである。」

そこで、彼らが、「主よ、そのパンをいつもわたしたちにください」と言うと、イエスは言われた。

「わたしが命のパンである。
わたしのもとに来る者は決して飢えることがなく、わたしを信じる者は決して渴くことがない。